

就労と健康・生活に関する調査

調査報告書

調査ご協力へのお礼とご報告

この度は介護現場での就労がご本人の健康や生活に及ぼす影響を明らかにするために、町田市介護人材バンクの登録者の方々、摂津市健康・生きがい就労トライアルに参加されている方々を対象に、2023年6～7月（1年目）、2024年8月（2年目）にアンケート調査を実施しました。調査の実施に際しては、ご協力いただき誠にありがとうございました。本報告書では、2年目の調査結果について、1年目との比較や新たに追加した項目の結果を中心にお示しいたします。

まず、介護助手として働いている方は、1年目の段階で既に「生きがい」や「他者や社会に貢献している」と実感しており、2年目にかけてその実感がやや増したことがわかりました。

介護助手の仕事を選んだ際に、仕事の内容が介護に関することを強く重視した方は、そうでなかった方と比べて心の健康状態が良好であり、将来の自分が介護に必要になりうることへの不安が低いという特徴も見られました。

調査結果をご覧いただき、今後のご自身の活動に役立てていただけましたら幸いです。

東京都健康長寿医療センター研究所

2025年5月

目次

調査の概要	2
回答者の概要	3
介護助手として働くことと、健康や生活との関連	4
世代継承的達成感	
生きがい	
将来の介護に対する不安	
介護助手として働く動機と、健康や生活との関連	6
精神的な健康状態	
将来の介護に対する不安	
まとめ	8

調査の概要

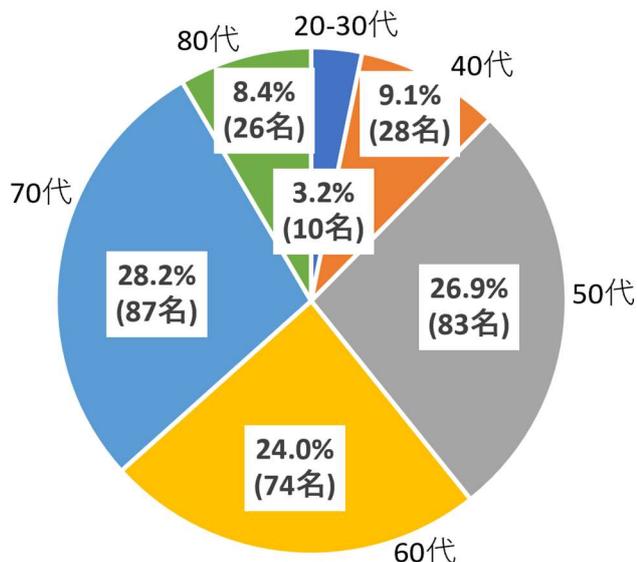
- ・ 目的：
介護現場での就労が健康や生活に及ぼす影響を明らかにすること。
- ・ 調査対象地域：
東京都町田市、大阪府摂津市
- ・ 調査期間：
1年目：2023年6～7月
2年目：2024年8月（町田市）、2024年12月（摂津市）
- ・ 本調査における「介護助手」：
主に施設利用者の身体に直接触れない介護の周辺業務
（ベッドメイキング、配膳、清掃、話し相手や見守り、
レクリエーションの実施・補助など）を担う方

回答者の概要

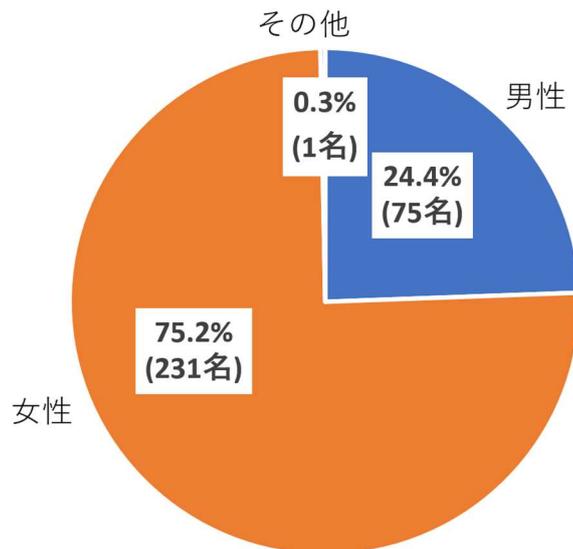
町田市・摂津市で合計 308 名（町田市 301 名、摂津市 7 名）より回答が得られました。回答者の詳細は以下のとおりです。

回答者の基本属性

<年代>

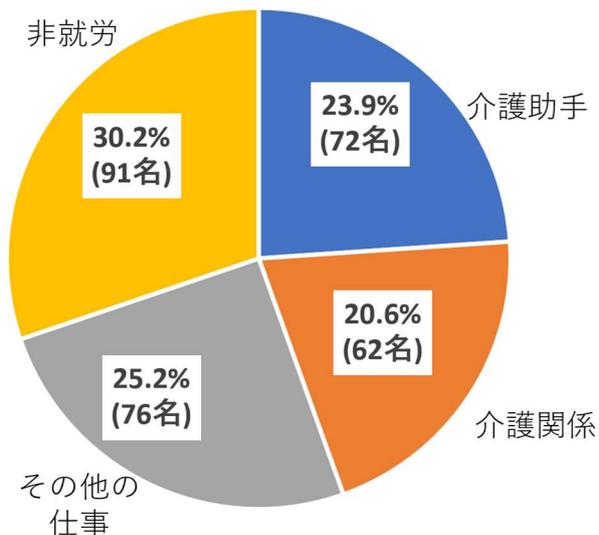


<性別>

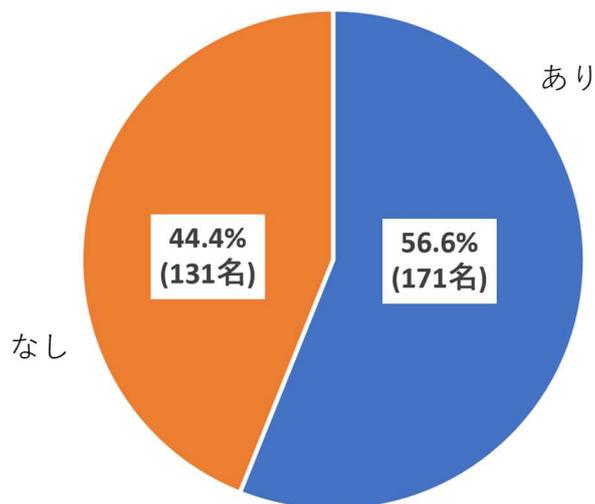


全体の 4 割近くが 70 代以上、3/4 が女性でした。

<就労状況>



<介護関連資格>



全体の 2 割が介護助手で、半数が介護関連資格をお持ちでした。

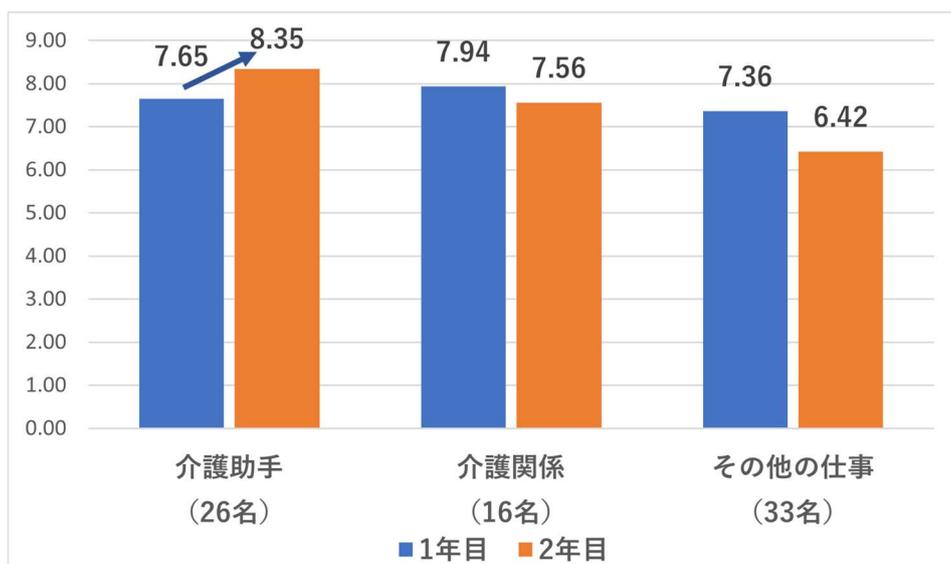
介護助手として働くことと、健康や生活との関連

介護助手の継続によりどのような変化があるのかを検証しました。ここでは、1年目と2年目で同じ職種にあった方を対象に、「世代継承的達成感」「生きがい」「将来の介護に対する不安」という3つの観点に注目し、2時点の得点を比較しました。

世代継承的達成感

(他者や社会への貢献、後世に継承されるような物事に携わっていることへの実感)

1年目と2年目では、いずれの職種も大きな変化は見られませんでした。介護助手は1年目で介護関係に次いで世代継承的達成感が強く、2年目にかけてその実感はやや増していました。

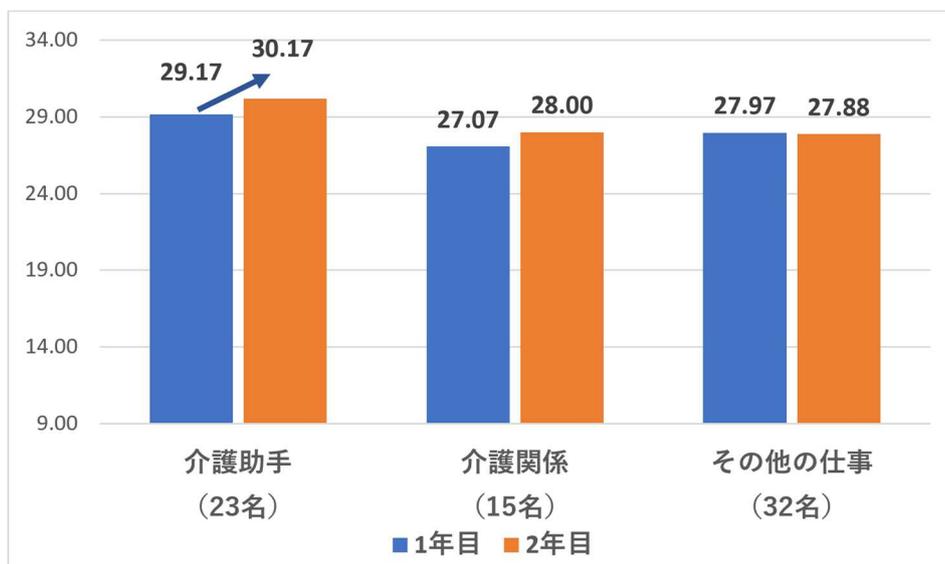


※得点範囲：0-20点

得点が高いほど、世代継承的達成感が高い。

生きがい

いずれの職種も、1年目と2年目では大きな変化が見られませんでした。しかし、介護助手は1年目の時点で生きがいを最も強く実感しており、2年目にかけてその実感がやや増していました。

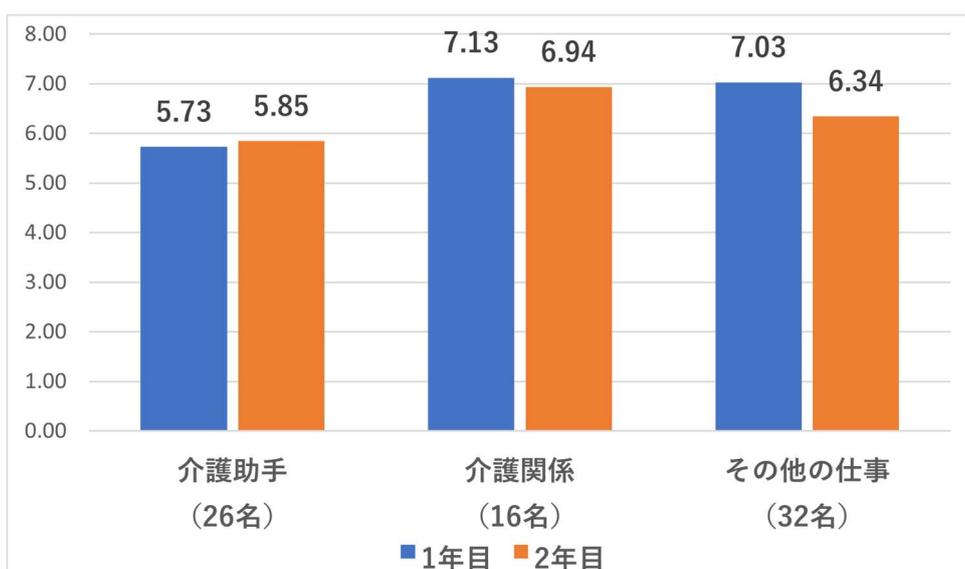


※得点範囲：9-45点

得点が高いほど、生きがいが強い。

将来の介護に対する不安

介護助手は1年目において、介護関係・その他の仕事よりも自身の将来の介護に対する不安が弱く、2年目もその傾向が見られました。

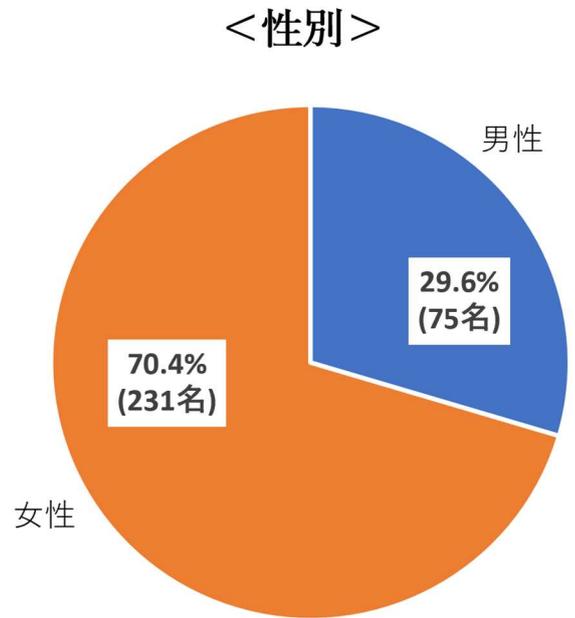
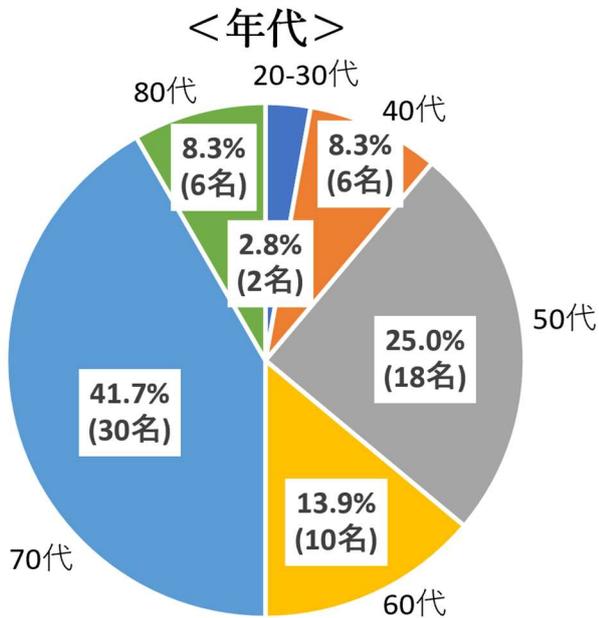


※得点範囲：0-10点

5 得点が高いほど、不安が強い。

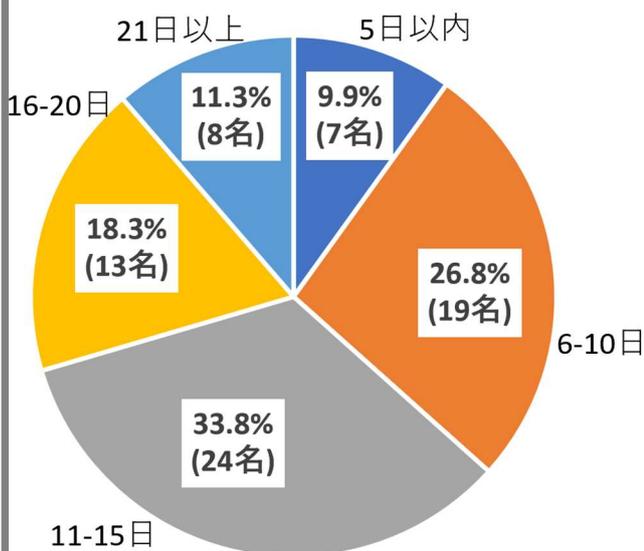
介護助手として働く動機と、健康や生活との関連

ここからは、2年目の調査にて介護助手の方（72名）からご回答いただいた内容に絞ります。まずは、介護助手の方々の属性についてお示しします。

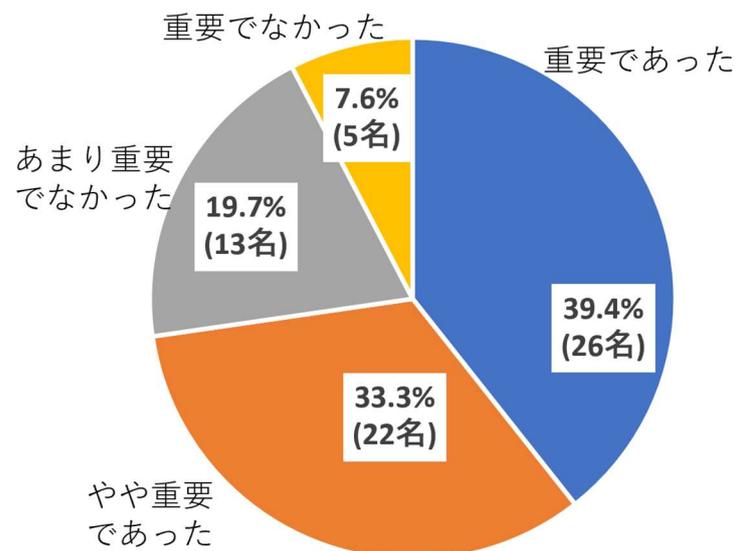


6割が60代以上、7割が女性でした。

<1ヶ月あたりの勤務日数>



<介護に関する業務であることの重要性>



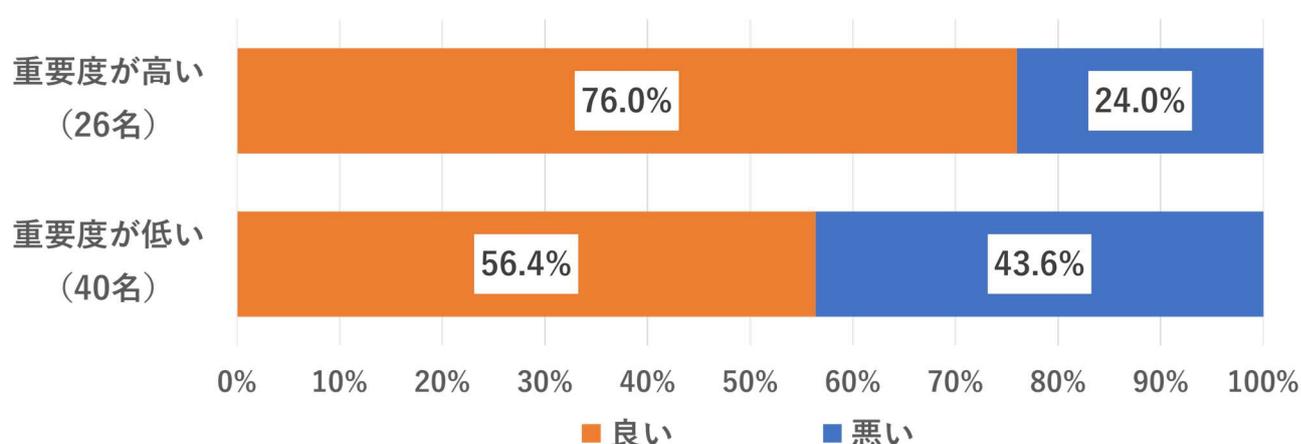
6割が月に11日以上勤務していました。
7割が介護に関する業務であることを重視して、
介護助手の仕事を選んでいました。

今回の調査では、新たに、介護助手の仕事を始めた時の気持ちに着目しました。介護に関する仕事を強く希望された方と、そうでなかった方とでは、業務への向き合い方や感じ方が変わり、健康や生活への影響も異なると考えたからです。

ここからは、介護助手の仕事を選んだ際に、介護に関する業務であることを重視したかと、健康や生活との関連についての結果をお示しします。

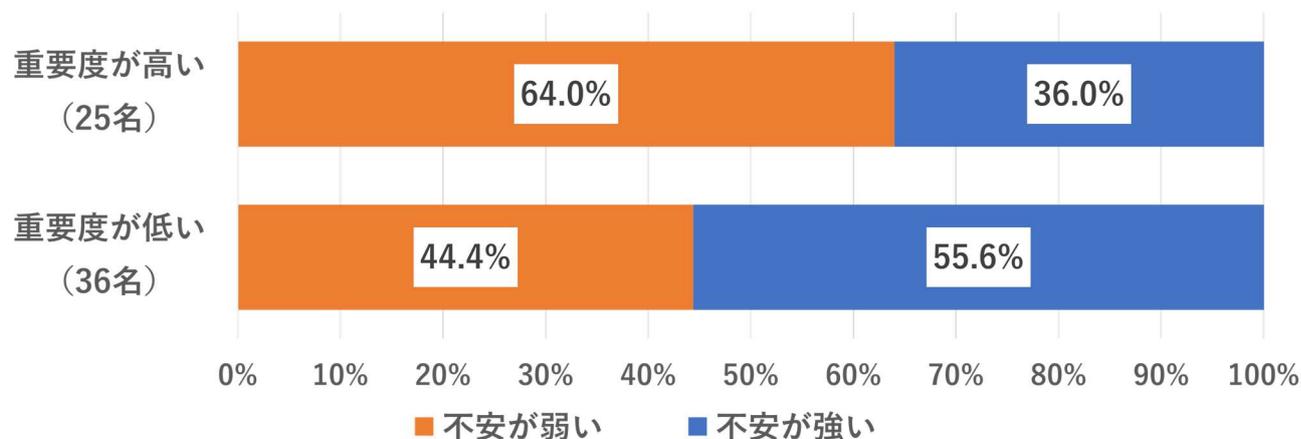
精神的な健康状態

仕事を選ぶにあたって、介護に関する業務であることの重要度が高かった介護助手の方は、そうでなかった方と比較して、心の健康状態が良いことがわかりました。



将来の介護に対する不安

同様に、介護に関する業務であることの重要度が高かった介護助手の方は、そうでなかった方と比較して、自身の将来の介護に対する不安が弱い傾向にあることも明らかになりました。



まとめ

介護助手の方は世代継承的達成感や生きがいを強く感じており、その実感が1年目から2年目にかけてやや増していたことが分かりました。介護助手の方は仕事を通じて様々な世代と関わる機会があるため、周囲に対する貢献意識や生きがいの実感が強まることにつながったと考えられます。

また、介護助手の方は他の職種の方と比べて、将来の自分が介護を必要とするようになりうることへの不安が1年目の時点で低く、1年目から2年目にかけてその傾向が維持されていました。こうした結果から、介護助手として働くことは、ご本人の健康や生活に対して好ましい影響をもたらす可能性が示唆されました。

2年目調査より、介護に関する業務であることを重視して仕事を選んだ介護助手の方は、そうでなかった介護助手の方よりも心の健康状態が良好であること、将来の自分が要介護になりうることへの不安が弱いことも示唆されました。介護助手の仕事でも他の仕事でも、ご自身の関心や思いと業務内容が合っているかを確認することや、ご自身なりの目的意識を持って日々の仕事に携わることが重要だといえます。